

■阿波しらすぎ大橋建設事業の渡河部周辺の底生生物データ

< 〇 は、希少種保護のため非公開 >

Table with columns for No, 門, 綱, 目, 科, 種名, 和名, and 17 columns of data (H18.10 to H23.7). Rows include various biological groups like 環形動物, 軟体動物, 星口動物, 節足動物, and 棘皮動物.



イボカギナマコはWWFに「危険」と指定された希少種である。
は、平成25年6月に吉野川渡河部周辺で実施した底生生物調査と共通する種である。
WWF:「WWF Japan Science Report Vol3(日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状)」:WWF Japan(1996年)
絶滅 = 野生状態でどこにも見あたらなくなった種。
絶滅寸前 = 人為の影響の如何に問わず、個体数が異常に減少し、放置すればやがて絶滅すると推定される種。
危険 = 絶滅に向けて進行しているとみなされる種、今すぐ絶滅という危機に瀕するということはないが、現状では確実に絶滅の方向へ向かっていると判断されるもの。
希少 = 特に絶滅を危惧されることはないが、もともと個体数が非常に少ない種。
現状不明 = 最近の生息の状況が乏しい種。

平成 25 年 6 月底生生物調査データ

は、希少種保護のため非公開

調査期日：平成25年6月6、7日

調査方法：スミス・マクネンタイプ採泥器による3回採泥

(単位：個体数；個体/0.15㎡、湿重量；g/0.15㎡)

Table with columns for species (番号, 門, 綱, 目, 科, 学名, 和名), survey location (調査地点), and 11 numbered data columns (①-⑪) for individual counts and wet weight, plus a total column (合計). Rows list various marine organisms like Turbellaria, Nemertinea, and various mollusk species.

注) 湿重量の「+」は0.01g/0.15㎡未満を示す。

は阿波しらすぎ大橋建設事業で実施した底生生物調査(平成18~23年度ウレマメガニ分布調査中、U-17、U-18地点)と共通する種である。